

## 美濃国守護代家 齋藤氏 系図

### ●齋藤利永 長禄4年(1460)5月27日没

弟に齋藤妙椿(持是院家初代)。妻は赤松氏の出身(後妻)

(康正本)「築氏正長銘尽 写(古今鍛冶銘)」は、宇津宮三河入道から順阿-幸阿-重阿-利永と伝えられた古剣書。梁形部左衛門入道円阿の口伝を綴ったもの。天文14年(1546年)に筆写されたもので、年号が康正までしか書いていないため、1455年から1457年ころに「喜阿本」を参照し編集したものとみられる。「宇都宮名盡」はこの本を参考にしたものともいう。重阿が美濃国の守護土岐氏に仕官して、齋藤利永に伝えた。

### ●齋藤利安(戒名は敬仲元肅) 永正5年(1508年)没

多くの茎の押形を集める。「築氏正長銘尽 写(古今鍛冶銘)」を父「利永」より伝えらる。後に、「天文十四年(1545年) 卯月五日 本阿弥 花押」とあり、本阿弥家が所持した。

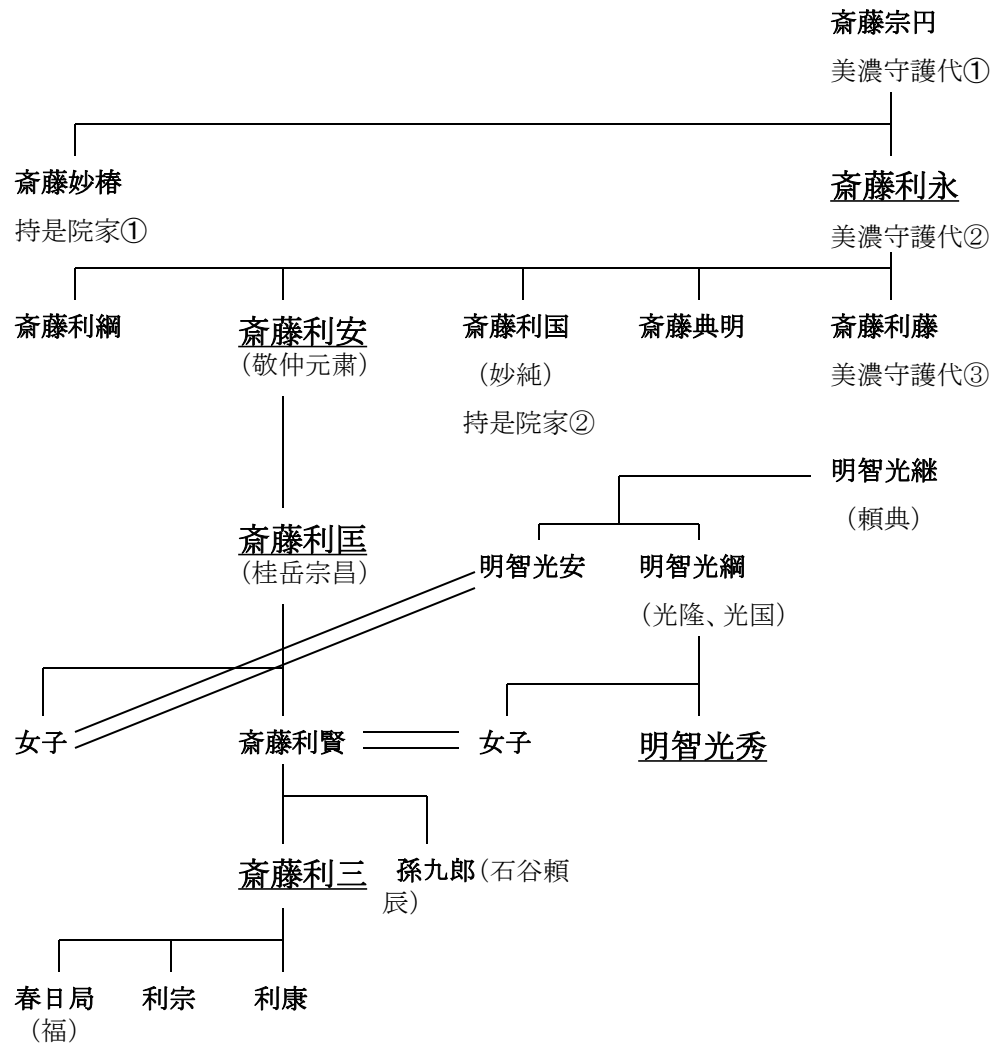
### ●齋藤利匡(戒名は桂岳宗昌) 生没年不詳

「往昔集」は、永正13年(1516年)。齋藤(長井)利安(敬仲元肅)が集めた茎の押形を、子の齋藤利匡が5年を費やしてまとめたもの。粟田口、相州、中国四国、北陸、備前備中、九州まで約840口ほどの刀剣を網羅する。原本は失われている。

「往昔抄」は、齋藤利匡の友人である神戸直滋が、永正16年(1519年)に「往昔集」を写すことを許されたもの。天文16年(1547年)11月23日に跋文を記している。杉原祥造氏旧蔵。

### ●齋藤利賢 天正14年(1586)5月23日没

父は齋藤利匡。軍記・史書・系図等では齋藤和泉守利胤(長井齋藤利安)。齋藤道三・義龍父子2代に仕える。妹に明智光安室。室は前妻に足利義輝の重臣蝮川親順の娘(蝮川親世の妹、後に離縁して石谷光政室)、後妻は明智光綱か、明智光継(宗善)の娘。長男:石谷頼辰、次男:齋藤利三など。



※ ( )は別名